

三 英國秘密戰活動之一端

昭南附近謀略部隊行動要領

昨年十月昭南附近ニテ逮捕セラレタる日人謀略部隊ノ行動ニ關スル情報等ニ
 侵入経路

英國潜水艦「フリーマントル」ヨリ「ロンドン」經由「ホルネオ」泊岸ニテ或ク一
 掠奪、之ニ依リ「ロンドン」島東方「ロンドン」島ニ侵入スルニ活動ス。
 全圖及遂行要領

基地ヲ根據トシ陸ヨリ在泊艦船又ハ護護「ボート」ニテ目的艦船ニ到着シ磁石
 附時限機雷ヲ附着シ定時後之ヲ爆破ス。

(三) 編成及裝備兵数

英國陸軍少佐ヲ長トシ五名

一人乘潜水艇一五隻(一潜水艦ニ搭載)

護護「ボート」

數名

一人乘潜水艇構造及性能	長	一〇呎
連力	水三節半 水中ニテ即	
潜航深度	五〇—六〇呎	
航續距離	四〇哩	

(四) 特徴

從來英國例、謀略部隊投入法ハ概テ

。跳飛法(目的地ニ陸前ニ附也、離島ニ先ヅ據点ヲ設置ス)

。強行法(天候ヲ以テ原住民ヲ威嚇或ハ我ガ優勢ヲ示シテ突破ス)

。拉置教育法(原住民、民間船等ヲ獲得使用ス)

。三種ナシモ、該部隊ハ方法的ニ右三者ヲ綜合セル「コマンド」部隊ノ性格

ヲ有シテ、且、倭情ニ依テ濠洲及印度方面ニ於テ敵ハ斯ル謀略部隊

ヲ大々的ニ編成訓練シタルモノ、如ク、敵ノ計畫的謀略反攻ニ對シテハ益々

至、嚴重警戒ヲ要ス。

0070

者	帶	副	長

0071

秘

昭和十八年五月二十四日

陸密第一六八八號別冊第一三號

軍防諜參考資料

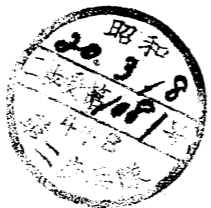
沿岸築城防諜上ノ諸注意

註 本注意ハ關係者視察ノ結果竝ニ憲兵ノ報告ニ基クモノニシテ敵側ノ沿岸施設諜報企圖ノ強化ヲ豫想セラルノ現情勢ニ於テ不備ナル點ハ速ニ改善ヲ要スヘシ
飛行場ノ防諜又之ニ準ス

一、防諜ノ限度ヲ考慮スル要アリ

陣地ノ秘匿ヲ完全ナラシムルハ理想トスル處ナルモ諸般ノ關係上某程度ノ部外漏洩ハ已ムヲ得サルモノアリ此ノ漏洩ハ國民防諜觀念ノ昂揚、敵諜報網ニ對スル積極的の破碎竝ニ欺騙等ニ依リ補ハサルヘカラス又重要ナル秘匿事項ニ關シテハ之ヲ知得セシムル範圍程度ヲ定メ其ノ範圍程度外ノ漏洩ヲ嚴ニ戒シムル處置ヲ講スルヲ要ス欺騙ニ關シテハ演習ノ名稱ヲ附スル等ノ他特ニ偽陣地ヲ設クル著意ヲ必要トス
陣地周邊ノ各地域ニ對スル防諜措置ノ著眼別紙ノ如シ

昭和二十年一月陸軍省印刷



二、憲兵ノ緊密ナル協力ヲ必要トス

1、憲兵ノ防護上ノ協力事項ノ主要ナルモノ左ノ如シ

イ、軍隊ノ防護措置ニ關シ專門的立場ヨリ意見ヲ具申ス

ロ、官民ノ防護協力ニ關シ軍隊ノ要望並ニ憲兵自ラ必要ト思惟スル事項ヲ傳達シ之カ具現ヲ指導ス

ハ、軍隊官民防護實施ノ狀況ヲ監察シ上司ノ指導ニ資ス

2、軍隊側ノ憲兵ニ對スル連絡

軍隊トシテハ憲兵ヲ最モ有効ニ活用スルコト緊要ニシテ之カ爲ニハ必要ナル事項ヲ積極的ニ通報スルヲ要ス往々ニシテ秘密保持ニ藉口シ防護措置實施上憲兵ヲシテ知得セシムルヲ要スルコトヲモ秘匿シ爲ニ適切ナル處置ヲ缺ク結果ヲ招來シアル事例アリ注意ヲ要ス

3、憲兵ノ軍隊ニ對スル連絡

憲兵トシテハ積極的ニ所在ノ軍隊ニ連絡シ憲兵上級部隊ハ適時關係部隊ノ狀況ヲ差支ナキ限り下級ノ憲兵ニ通報シ下級部隊亦適時必要ナル意見、具申、報告等ヲ行フ等絶エズ積極的ニ軍隊ノ實情ヲ知得シ之ニ應スル適切ナル措置ヲ行フコト必要ナリ

三、官民ノ協力指導ニ就テ

又軍隊ノ駐留移動ニ伴ヒ努メテ憲兵ヲ軍隊ノ近傍ニ分駐セシメ又其ノ部隊協力ノ專任者ヲ定ムル等軍隊トノ連絡ヲ容易ナラシムル如ク努ムル要アリ

官民ノ積極、消極兩方面ニ互ル協力ハ極メテ必要ニシテ部隊トシテハ自ラ若クハ憲兵ヲ通シ協力ヲ要請シ其ノ實行

ヲ指導スル要アリ而シテ一般ニ沿岸地區ノ官民ノ協力精神ハ十分ナルモノアルヲ以テ之ニ必要ナルコトヲ理解納得セシムルト共ニ防護上ノ措置ヲ組織化シ農村保衛ニ協力スルノ態勢ヲ作ラシムル必要トシ又他面防護上ノ要求ニ基ク生活ノ壓迫ヲ最小限ナラシムル要アリ

尙將來住民ノ敵手ニ入ル場合等ヲ考慮シ逐次深刻ナル防護觀念ノ徹底ヲ期スルト共ニ骨幹陣地ノ編成素質ニ關シテハ其ノ要點ヲ官民ニ對シテハ一切秘匿スル如ク指導スルヲ要ス

1、各地域毎ニ其ノ要度ニ應スル官民ノ防護觀念昂揚ノ教育ヲ行フ要アリ就中官公署、係者地方有力者等ハ諸般ノ關係上比較的陣地ニ關スル事項ヲ詳知シアル者アルヲ以テ之カ指導ニ關シテハ注意ヲ要スルモノアリ

2、官民防護組織ハ現狀トシテハ各地區毎ニ其ノ地ノ憲兵、警察署長、驛長、町村長、在郷軍人分會長、其ノ他要ノ團體ノ長等ヲ網羅セル協議會式ノモノヲ設置シ部隊ノ要求ヲ之ニ明示シテ各組織ニ依リ末端ニ徹底ヲ圖ル如クスルヲ可トセン

3、列車ノ窓ノ遮蔽ニ關シテハ左ノ注意ヲ要ス

イ、外國人等ノ通過スル線ト然ラサル線トニ於テ差異アリ又遮蔽ノ爲ニ反ツテ注意ヲ喚起スルノ結果トナルコト等ヲ考慮スル要アリ

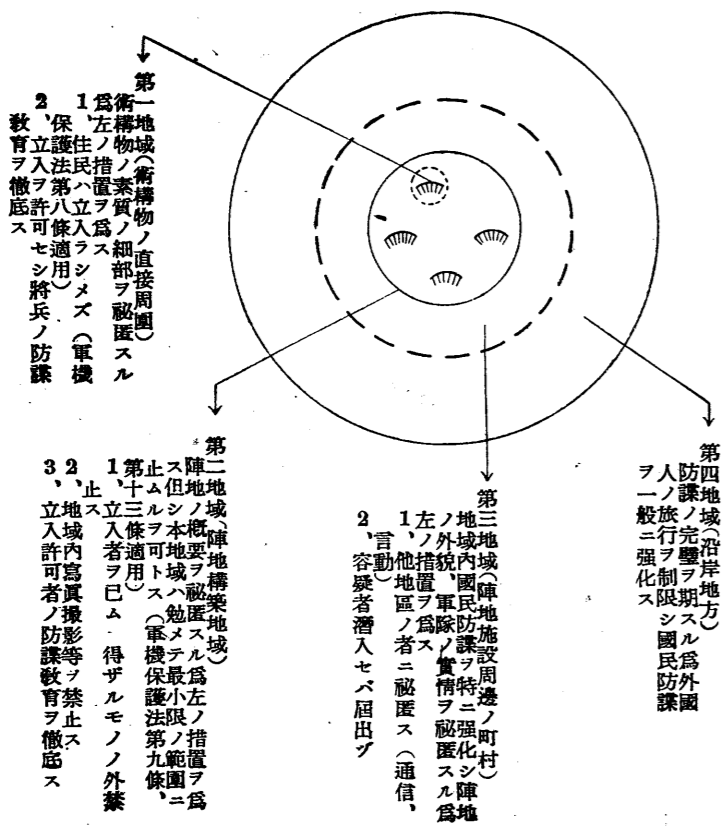
ロ、遮蔽區間ヲ勉メテ最小限ニスルト共ニ實施ヲ確實ナラシムル如ク指導スルヲ要ス

(遮蔽區間長大ナル場合ハ兎モスレハ之カ實施不確實トナリ却ツテ官民ノ積極的防護觀念ヲ消磨スル缺陷ヲ生シ易シ)

ハ、軍ノ要求ハ勉メテ憲兵ニ於テ取纏メ適正ナル所要區間ヲ鐵道側ニ要求スルヲ可トス

別紙

防諜ノ地域的措置ニ關スル説明要圖



4、一般住民ノ秘匿事項ノ漏洩ハ通信及他地區ノ者ニ對スル言動ニ依ルモノニシテ一ニ防諜觀念ノ缺如ノ結果ニシテ目下全國各地方共有害事象散發シアリ

四、部隊ノ自體防諜ニ就テ

部隊ノ自體防諜ハ尙一般ニ十分ナラサルモノアリ注意スヘキ主ナル事項左ノ如シ

- 1、秘密圖書ノ取扱粗瀆ナルモノアリ特ニ沿岸陣地要圖等ヲ常人ノ出入多キ處ニ揭示シアル等ノ例尠カラス
 - 2、周圍ノ常人ニ何等注意スルコトナク大聲ニテ陣地ノ素質等ヲ説明スルモノアリ
 - 3、無檢閲有害通信ヲ發信シアルモノ相當アリ
 - 4、地方人(女)ヲ陣地内ニ立入ラシメ陣地ヲ説明セシモノアリ
 - 5、勤勞奉仕ノモノ或ハ軍ノ使用人等ニ陣地ノ素質ヲ暴露スルハ適當ナラス此等ニ對シテハ防諜教育ノ徹底ヲ期スルト共ニ比較的秘密度ノ薄キ箇所ニ充當使用スルヲ可トス
- 五、其ノ他
- 1、部隊ノ移駐ノ場合ノ防諜措置ヲ豫メ考慮シ置クヲ要ス(衛兵ヲ殘置スルカ特設警備部隊ヲ以テスルカ在郷軍人會ノ協力ヲ求ムル等ノ各種方法アリ)
 - 2、對空遮蔽ニ關シテハ勿論十全ノ注意ヲ要ス

球七〇七一秘第一號

國頭支隊秘密戰機關「國士隊」結成、件報告
昭和二十年三月十四日

球第七〇七一部隊長

球第一六一六部隊長殿

球作命乙第五番ニ基テ首題ノ件左記ノ通りニ付報告ス
左記

一名 稱 國頭支隊秘密戰機關「國士隊」結成式

二目的 緊迫セル諸情勢ニ鑑ミ地方側ニ秘密戰
特務機關ヲ設置シ一般民衆ニ對スル宣
傳防諜ノ指導及民情ノ把握並日取悪時
ニ於ケル謀報戰ノ活動ヲ強化ス

一 結成、日時 昭和二十年三月十二日 至一八〇〇
 二 場所 國頭郡伊豆味國民間學校
 三 出席人員 支隊側 宇上大佐以下一〇名
 地方民側 國頭縣實業青年團本部長潮城其章以下
 團員二八名
 六 總三至レル経緯
 支隊ハ球作命乙第五篇ニ基テ地方側特務機關
 ヲ國頭郡實業青年團ノ機構中ニ組織實施セ
 ムト企圖レ三月五日同團本部員幸地新松外一名
 ノ幹部ヲ部隊ニ招致シ之ガ企圖ヲ披瀝シ協力方
 シ要望シタル處同幹部等ニアリテモ誠心誠意
 軍ニ協力シ作戰ノ施策ニ可與セム旨ノ快諾ヲ得
 タルヲ以テ三月十日名護町ニ於テ之ガ準備幹部會
 ヲ開催、結成式舉行ニ關スル打合ヲ為シタル後三月

一 結成、日時 昭和二十年三月十二日 至一八〇〇
 二 場所 國頭郡伊豆味國民間學校
 三 出席人員 支隊側 宇上大佐以下一〇名
 地方民側 國頭縣實業青年團本部長潮城其章以下
 團員二八名
 六 總三至レル経緯
 支隊ハ球作命乙第五篇ニ基テ地方側特務機關
 ヲ國頭郡實業青年團ノ機構中ニ組織實施セ
 ムト企圖レ三月五日同團本部員幸地新松外一名
 ノ幹部ヲ部隊ニ招致シ之ガ企圖ヲ披瀝シ協力方
 シ要望シタル處同幹部等ニアリテモ誠心誠意
 軍ニ協力シ作戰ノ施策ニ可與セム旨ノ快諾ヲ得
 タルヲ以テ三月十日名護町ニ於テ之ガ準備幹部會
 ヲ開催、結成式舉行ニ關スル打合ヲ為シタル後三月

一 伊豆味國民學校集合 一五〇。
 二 支隊長ニ敬禮
 三 國 民 儀 禮
 四 集 合 狀 況 報 告
 五 開 會 熊田副官
 六 支 隊 長 訓 示
 七 運 用 要 綱 說 明 熊田副官
 八 任 命 支 隊 長 要綱別添
 九 身 分 證 明 書 支 付 支 隊 長 編成表別添
 十 隊 員 決 意 表 明 談
 十一 閉 會 熊田副官

十二日結成式ヲ舉行スルニ至レリ

七 結成式ノ狀況

一 伊豆味國民學校集合 一五〇。
 二 支隊長ニ敬禮
 三 國 民 儀 禮
 四 集 合 狀 況 報 告
 五 開 會 熊田副官
 六 支 隊 長 訓 示
 七 運 用 要 綱 說 明 熊田副官
 八 任 命 支 隊 長 要綱別添
 九 身 分 證 明 書 支 付 支 隊 長 編成表別添
 十 隊 員 決 意 表 明 談
 十一 閉 會 熊田副官

一 國頭支隊の任務は、國頭支隊長の指令ヲ受ケテ、
 國頭支隊管内ニ於ケル隊外宣傳、防諜、謀
 略ニシテ支隊ノ秘密戰ニ協力スルモノトス
 二 本隊ノ任務ハ、重點ハ戰局ノ推移ニ依ルニ敵
 攻撃前ハ主トシテ宣傳、防諜ニ努メ、爾後ハ
 併テ謀報、謀略ニ任ズルモノトス
 三 本隊ノ任務達成ニ當リテハ常ニ國頭支隊長
 ノ特命ヲ受ケテ實施スルヲ本旨トシ、特命ナキ
 場合ト雖モ軍及官廳ノ指導方針ニ則リ活

國士隊運用要綱

第一條 國頭支隊秘密戰ニ協力スル官民特攻隊々
 ル本隊ヲ國士隊ト呼稱ス
 第二條 國士隊ノ任務ハ國頭支隊長ノ指令ヲ受ケ
 國頭支隊管内ニ於ケル隊外宣傳、防諜、謀
 略ニシテ支隊ノ秘密戰ニ協力スルモノトス
 第三條 本隊ノ任務ハ、重點ハ戰局ノ推移ニ依ルニ敵
 攻撃前ハ主トシテ宣傳、防諜ニ努メ、爾後ハ
 併テ謀報、謀略ニ任ズルモノトス
 第四條 本隊ノ任務達成ニ當リテハ常ニ國頭支隊長
 ノ特命ヲ受ケテ實施スルヲ本旨トシ、特命ナキ
 場合ト雖モ軍及官廳ノ指導方針ニ則リ活

躍スルモノトス

第五條 本隊ハ本部及地方支部ヲ以テ編成ス
編成要員別冊ノ通り

第六條 本隊員ノ身分證明ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 本部ニ本部長一、副長一、支部ニ支部長一ヲ設ク

隊員ハ支隊長之ヲ命ズ

第八條 本部長ハ國頭支隊長ノ命ヲ受ケ本隊ノ任務遂行上支部長及隊員ヲ指揮統轄ス

第九條 支部ハ各護町ニ設ケ支部ハ各町村ニ之ヲ設置ス
支隊長ノ指令ハ其ノ都度、文書或ハ口達ニ依リ
本部長ヲ通ジテ發スルヲ本則トスルモ情況ニ

應ジ直接支部長若ハ隊員ニ對シ傳達ス

第十條 本隊員ノ報告ハ本部長ヲ通ジ國頭支隊長ニ文書若ハ口頭ヲ以テ為スヲ本則トスルモ緊急ヲ要スル場合ハ直接支隊長ニ報告ス

第十一條 本隊ノ通信方法ハ有線通信(軍通、電信、無線)ヲ本則トスルモ情況(有線通信杜絶)ニ依リ所在無線ヲ利用スルモノトス

最悪ノ場合ハ徒歩若ハ所在部隊ニ移謀シ實施スルモノトス

第十二條 敵狀諜報ノ報告要領ニ付テハ別ニ之ヲ示ス

第十三條 相互連絡ニ付テハ本部長之ヲ定ム

第十四條 各隊員ハ必要ニ應ジ軍各部隊ニ連絡及

編成		氏名		證明書番號
本部長	湖城	其章	第一號	
副部長	幸地	新松	第二號	
本部隊員	吉元	崇真	第三號	
	岸本	清	第四號	
	宮城	藤義	第五號	
	嘉敷	唯功	第六號	
	宗根	源和	第七號	
	宮城	秀男	第八號	
	照屋	忠現	第九號	
	宮里	金次郎	第十號	
	幸地	新松	第十一號	
名護支部長	幸地	新松	第十二號	
名護支部隊員	玉城	賢清	第十三號	

援助ヲ要請スルコトヲ得
 第十五條 其他ニ關シテハ支隊長ノ指示ヲ受ケ本部長
 之ヲ決スルモノトス
 第十六條 本隊員トシテ不適任ト認メタル者ハ支隊長之ヲ
 解任シ全隊員ニ之ヲ通達ス

名譽部員	又吉 桑九郎	第二三番
恩納支部長	津嘉山 朝信	第三番
全支部員	玉那 霸仁王	第二三番
東支部長	比嘉 嘉好	第四番
全支部員	比嘉 鎌三	第二四番
全	比嘉 蒲春	第二五番
全	邊土 名朝興	第五番
全支部員	松田 俊雄	第二六番
初地支部長	松田 俊雄	第六番
全支部員	收志 朝三郎	第二七番
全	松田 精吉	第二八番
全歸仁支部長	比嘉 榮祐	第七番
全支部員	金城 精喜	第二九番
全	金城 光正	第三〇番

國士 總支部

全支部員	金城 精喜	第三〇番
全	金城 光正	第三〇番
全支部員	比嘉 榮祐	第七番
全	松田 精吉	第二八番
全歸仁支部長	比嘉 精喜	第二九番
全支部員	金城 精喜	第二九番
全	金城 光正	第三〇番
全支部員	收志 朝三郎	第二七番
全	松田 精吉	第二八番
全歸仁支部長	比嘉 榮祐	第七番
全支部員	金城 精喜	第二九番
全	金城 光正	第三〇番

全支部長	仲宗根善老	第八席
全支部隊員	金城正幸	第三一席
久志支部長	松永保市	第九席
全支部隊員	宮里國本	第三二席
全武支部長	宮城清宜	第一〇席
國頭支部長	山入端支健	第一一席
全支部隊員	山川武範	第三三席

全支部長	仲宗根善老	第八席
全支部隊員	金城正幸	第三一席
久志支部長	松永保市	第九席
全支部隊員	宮里國本	第三二席
全武支部長	宮城清宜	第一〇席
國頭支部長	山入端支健	第一一席
全支部隊員	山川武範	第三三席

備考 身分證



四状況

松田俊雄	中根根善光
至城賢清	比嘉好吉
辺土名教興	照尾忠現
津嘉山教信	宮本秀男
波嘉教睦功	宮本藤義
山本清	吉元栄真

先づ山本中尉ヨリ國頭支隊特務機関設置趣旨
企圖、任務、大要ヲ述ベ翼賛會、協力方ヲ要
望シタル後懸案ニ移ル
懸案中主ナル質疑應答 並 要望事項也記ノ
如シ

左記

中根根善光 自分ハ最悪時ニ於ケル縣民トシテノ新種遊撃

隊組織ヲ考ヘテキタ處、丁度部隊ノ方カ
ラ申シ出ラレテ非常ニ感激シテキル。粉骨
細心此ノ任務遂行ニ努メル覺悟テキル
部隊ノ方デモ此ノ秘密戰ノ方法ヲ具体
的ニ示レテ健シイ

方法等ニ就テハ進而示ス

山本中尉
吉元栄真
同志中ヨリ本部員ヲ四區キ度ハ一村一名
ノ割デ一〇名位ヲ遣フ

山本中尉
宮城藤義
ソチヲ都令ノ良イ人数ヲ良イ一〇名位
ガ適當カロウ

同志ニ採用シタイ者デ防衛召集ヲ受ケ
テキル者ガアルガ部隊ノ方デ解除シテ
賞ヘナイカ

山本中尉
部隊長殿由拜シテ得テ出テ来レバ解除

ノ方法ヲ講ズル

湖城其章

山本中尉

湖城其章

山本中尉

吉元榮真

山本中尉

吉元榮真

箱嶺兵長

同志全員ノ懇談會ハ何日頃ナル豫定カ

ソチヲ都合ノ良イ日デイ

三月十二日ガ都合ガ良イ

デハ三月十二日午後三時伊豆味園長學校

ニ於テ開催スルニ決メル

當日警報ガ発令サレタラ?

警報中デモ開催スル

ソレデハ三月十二日迄ニ相當同志ヲ獲得スル

様ニ急ガネバナラナイ

線獲得ニ付テハ細心ノ注意ヲ要スル、且量ヨリ

モ實デアル、理想ヲ言ハバ同志精銳主義デ

今晚集ツテキル十六名デテモ地区内ノ任務

ヲ完フルル覚悟デテテ賞ヒ度イ

此ノ仕事ハ重大ナ割ニ表面ニ現レナイ地味

ナ苦勞ノ多い仕事デテ了度四十七士ノ天野

屋利兵衛的役割デアルカラ此點充分

覺悟シテテ賞ヒ度イ

線獲得ヲ焦ラナラヌ、酒癖、アル者、又ハ

意薄弱者ニ決シテ手ヲツケルナ

ヨク判ツタ人選ニ付テハ充分注意スル

機密指令ノ方法及現在四〇人位ノ同志ノ特

種區域ヘノ配置方法並本部員ノ特種区

域ヘノ配置方法ハ如何

山本中尉

吉元榮真

其ノ方法等ニ付テハ後日通達スル

五所見

以狀況長ノ通りニシテ當日會同セル會員十六名ハ

悉ク感激シ一死報國ノ念ニ燃ユル決意ニ看取セラ
 ルニモ 仲宗根源和ヲ除ク全員ハ當地區ニ格ケル
 所謂 人格者・知名士型ノ士ニシテ斯種任務ニ當テ
 服務シタル体験ナク 且ツ組織的ニ斯種教育ヲ
 受ケタル者ナク 機密保持ニ服従精神薄弱
 ナル脆弱面アリト思料セラル、點アルモ任務ノ重
 大性ヲ激吹、感激心ヲ昂揚持統セムレバ或程
 度ノ活動ハ期待セラルモトト思料ス

(2) 仲宗根源和ハ元日本共産党ニ軍連ニ相當
 深刻ナル抱負的イデオロギイ、抱持者ナルモ現
 在ハ斯種運動ヨリ遠ガレタル者ニシテムシロ本人
 ノ感激心ヲ喚ビタラハ豫期以上ノ成果ヲ收ムルハ非ズヤ
 ト思料セラル

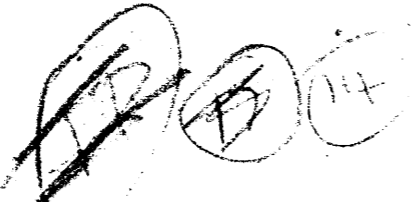
(3) 要緊事項ノ防衛召集者ノ解除ニ付テハ尚 下級
 者宛スル傳地アリト思料ス

陸軍

副官説明要旨 (果)

ハ心構ニ就而

ハ特務機 軍負ハ聖戦ノ目的ヲヨク認識シ
 皇土侵攻ノ敵ニ對スル撃滅精神ヲ昂揚
 スルト共ニ各機 軍負ノ任務達成ノ成否ガ
 直接間接ニ軍作戦ニ及ス影響甚大ナル
 重大性ヲ常ニ居ルヲトテヨク辨ヘテラレタル



任務ハ死ストモ遂
 於スルノ覺悟ヲ堅持スルニ
 2. 特務隊員ノ使命ガ重大ナルモノナルニ不拘
 其ノ行動ハ常ニ穩密的ニシテ表面華カナラ
 ズ陰ノ力持的役割ノ如ク且^{ナリ}少^ク幾多ノ辛苦
 ニ伴フモノナルモ機隊員ハ如何ナル艱難ニ逢
 着スルモ之ヲ克服シテ任務遂行ニ挺身スル
 決意ヲ強固ニスルコト

3. 一般兵隊ハ勿論自己ノ家族ト雖モ本機關

設置ノ趣旨、任務、企圖等ヲ漏泄セザ
 ルコト

機隊員ハ支隊長ノ命令ヲ統制アル行動
 ニ服スルヲ本則トスルヲ以テ苟モ独自ノ見
 解ヲ以テ專行シ本機關ノ運営ニ阻
 害ヲ來シ延テハ軍作戦ニ過誤ヲ生ゼ
 シタルガ如キ結果ヲ招來セシメザル様ニ常

任務ハ死ストモ遂
 於スルノ覺悟ヲ堅持スルニ

六 任務ニ就而

ハ酒色ハ禍ノ因ヲ為スコトニ注意シ任務遂

行ノ手段トシテ為ス場合ハ別トシテ酒色

ニ耽溺スルヲ數ニ慎ムコト

一 特務機關ノ任務ハ謀宣傳防諜謀報

謀略トス

二 任務ヲ分テテ平時ト最悪時ニ分テ

(日本ノ下ニ)

三 平時ノ任務ハ主トシテ宣傳、謀報ニ重點

ヲ置キ併セテ防諜勤務ニ服ス

ハ最悪時ハ謀報、防諜ニ重點ヲ置キ併

セテ宣傳、謀略ヲ行フ

三 宣傳ニ就而

ハ宣傳ハ支隊長ノ特命ニ依リ實施スルヲ

本則トスルモ原則トシテ

皇國及大東亞運命ノ維持

深刻ニ銘肝セシメ我國ノ存亡ハ東亞
 諸民族ノ生死興亡ノ岐ルニ所以ヲ認
 識セシメ莫ニ六十万縣民ノ總蹶起
 ヲ促シ以テ總力戰態勢へ、移行
 ヲ急速ニ推進シ軍官民共生共死ノ
 一体化ヲ具現シ如何ナル難局ニ遭遇ス
 スルモ毅然トシテ仗勝道ニ邁進ス
(日本ノ士氣)

陸軍

スルニ至ラレムル様一般部長ヲ指導終局

蒙スルゾト

2. 宣傳ノ対象ハ担化区域内ノ軍人軍属

ヲ除ク一般官民ナルゾト

3. 宣傳方法ハ其ノ都度指示スルモ機密紙

揭示板、張紙、口頭ヲ以テ時機、場所、民度

ニ適應スル如ク為スゾト
(常會若ハ右種集會ヲ補助
的ニ利用スルゾト)

六、宣傳ハ支隊長ノ命^ル事ヲ忠實ニ實施

シ徒ラニ興味本位ニ誇張否因ニ逆効果

ヲ生サシムル機數ニ注意スルヲ

五、最悪時ノ對敵宣傳ニ就テ、追テ指示ス

四、謀報ニ就テ

一、謀報ハ軍ノ作戰ニ及ス影響至大

ナルモノアルヲ以テ適確迅速ヲ旨トスルヲ

(日本ノ上陸)

陸軍

二、謀報ハ支隊長ノ特命ナキ限り主トシテ担

任区域内ニ於ケル

(一) 容疑人物ノ発見

(二) 容疑者ノ行動監視

(三) 容疑物件 (假例、怪火、逆宣傳ビラ等)

ノ発見、探索

ニ従事スルノ他ニ担任区域内ノ一般民心ノ

乖僻動向ニ注意シ

(1) 反軍、反官的分子、有無、

(2) 外國歸朝者特ニ第二世第三世ニシテ反軍及官的言動ヲ為ス者ナキヤ

(3) 反戰、厭戰氣運醸成、有無、若シ有

ラバ其ノ由因

(4) 敵侵攻ニ對スル鄰民ノ決意ノ程度

(5) 一般部民ノ不平不滿言動ノ有無、若シ

(日本ノトシニ)

有ラバ其ノ由因

(1) 一般部民ノ衣食住需給ノ狀態

(2) 其ノ他特異事象(假例、縣内疎開ノ受入狀況等)

ヲ穩密裡ニ調査シ報告スルノ

3. 最悪時、謀報ハ其ノ都度指示スルニ

敵ノ侵攻狀況、兵力等ヲ探索、報告スル

モノトス

五 防諜ニ就而

一 一般部員ノ防諜觀念ノ昂揚ニ努ムルコト
 (凡シ集會ヲ利用者ハ個人的ニ防諜觀念ノ昂揚ニ努ム) 特ニ縣内担任区域若ハ縣内ニ於ケル軍備ノ暴露防止ニ付テハ意ヲ用フルコト

(日本ノトモ)

二 徒ラニ民心ヲ不安動搖セシムル言動(流言蜚語)ノ未然防止ニ努メルト共ニ流言發生ノ際ハ之が根據ヲ探索スルコト

六 謀略ニ就而

一 謀略ハ最悪ノ場合ニ用フル手段ニシテ細部ニ關シテハ其ノ都度指示スルモ本特務機員ハ主トシテ敵陣地及糧秣・彈藥等ノ破壊及飲料水ノ毒物撒布等ニ奇襲肉攻セシムルヲ以テ其ノ決意ヲ堅持シ置クコト

七 報告ニ就而

一 報告ハ文書・電報・口頭孰レヲ以テ爲スモ妨ゲザルガ機密防止ニ付テハ細心ヲ注意シ屬シ證據物件ノ湮滅ニ心スベキコト

二 電話報告ノ際ハ暗號ハ「翼」贊會ト目録ニ

2. 電話報告、際、暗黙ハ、翼賛會ト目録ニ
稱スル下

3. 文書報告、際、表皮ニ「翼賛會」ト朱書
スル下

4. 本部ハ、起事項ヲ毎月末ニ報告スル下
左記

- 一 一般部民、衣食住、需給狀況（特ニ食糧ノ生産
ニ對スル需要、比較シ地区別ニ統計的ニ表示スル下）
- 二 一般部民間ニ反戦、厭戦氣運、醸成、不平不
満、有無、若シ有ラバ其詳細及原因並一般
ニ及セン影響
- 三 一般民心ノ動向

四 敵侵攻ニ對スル部民ノ決意ノ程度

五 特務機員ノ勤惰

六 其他特異事象

一 九ノ里幕

和
務

六道ヲ歩ムナ

岩清水ノ如ク

七 友人同ニカニニ書スル

三月十二日會議順序

- 一 伊豆國民學校集合 一五〇〇
- 二 支隊長敬禮
- 三 國民儀禮
- 四 集合狀況報告
- 五 開會，詳 (副官)
- 六 支隊長訓示
- 七 運用要綱說明 (副官)
- 八 懇談
- 九 代表答辭
- 十 閉會，詳

八 九
 任命
 身分證明書交付

者	帶	官	副	長	隊

00

(15) (18)

第一條 國頭支隊秘密戦ニ協力スル官民特攻隊タル本機

内之口頭支隊特務機内假稱ト呼稱ス

十二條 本機内(以下單ニ機内ト稱ス)ノ任務ハ國頭支

隊長ノ指令ヲ受ケ國頭支隊管内ニ於ケル隊

外宣傳、防諜、諜報ニ任ジ支隊ノ秘密戦

ニ協力スルモノトス

十三條 本機内ノ任務、重點ハ戦局ノ推移ニ依

商工部前以全トテ宣傳院ヲ設ケルニ努ム

爾後ハ併而謀報ニ化スルモノトス

第十四條 本機關ノ任務達成ニ當リテハ官ニ國領支隊

長、特命ヲ受テ實施スルヲ本旨トシ特命

トキ場合ハ軍及官廳ノ指導方針ニ則リ

活躍スルモノトス

第十五條 本機關ハ本部及地方支部ヲ以テ編成ス

編成要員別冊ノ通リ

本機關員ノ身分別ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本部ニ機關長一副機關長一支部ニ

支部長一ヲ設ケ

前項ノ役員ハ支隊長之ヲ命ズ

第十七條 本部ハ各支隊附屬ニ設ケ支部ハ各町村

ニ之ヲ設置ス

第十八條 本機關ノ指令ハ其ノ都度文書式ハ口